

11月

## 薬事委員会のご挨拶・ご案内

糖尿病・内分泌内科部長(薬事委員長) むらかみ しほう 村上 史峰


私は、この度角谷新院長就任に伴い、組織改造として薬事委員会委員長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

薬剤は、投与されると速やかに体内外において薬としての作用（薬理作用）を発揮します。病気の治療薬以外にも診断薬などもあり、治療対象となる臓器が多種多様であるように、薬剤も多種多様で非常に数が多く、毎年のように新薬が上市（販売）され、最近では「ジェネリック」や「バイオシミラー」などの従来品と同効ながら低価格に抑えられ経済的負担に配慮された薬剤が登場しています。

労災病院において、この様な多数薬剤の検討をおこなうのが、薬事委員会の任務の1つです。例えば新薬採用にあたり、実質的有効性の検討は、専門性が高く、各医師の学識に寄らざるを得ません（薬の効能は専門医が良く知る）。しかし、採用プロセスの透明化など「手続的適切性・妥当性」担保の要請から、当委員会が業務を担います。手続的適切性の担保は、安全安心な処方の実現を通じ、患者さんの健康増進、疾病回復促進に寄与できるものと考えます。

さらに、実務のかなめである、病院薬剤部と連携し、現に使用中の薬剤の副作用でも医薬品医療機器総合機構（PMDA）に報告を要するレベルのものの把握により、医療安全（患者さんの身体生命を守る）や、在庫・ジェネリック採用率の監視（経営改善）、他部署と協働し臨床倫理的に正しい薬剤関連業務の調整、新しいところでは、コロナ禍やウクライナ＝ロシア戦争による国際的な商品（原薬）流通混乱、国内ジェネリック製造不正と適正化による混乱、物価高騰などの影響から、都度、ジェネリック採用先変更の承認などにも関わっています。

また、近年話題のポリファーマシー（多剤併用）についても、薬事委員会の分科会的立場から、ポリファーマシー対策チーム検討会メンバーとして参加しています。実際の入院中、各患者さんの処方状況を把握し、「薬が多すぎないか、他院の処方と重複していないか、相互作用で副作用を起こしていないか」などの検討を行い、薬剤師を通じて処方医へフィードバックを行うなどしています。

富山ろうさい病院では、毎月、魚津市ケーブルテレビ「NICE-TV」による行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：11月1日～11月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「(仮) 地域包括ケアシステムのお話し～当院は面倒見のいい病院を目指しています～」

(出演者) 病院長 角谷 直孝



過去の放送はこちらのQRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ

絶賛  
放送中



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/index.html/>

## 薬事委員会での薬剤部の役割

薬剤部 能澤 真希子



薬剤部は、薬事委員会での事務局的立場となっています。

薬事委員会で主に審議される議題は、新規採用医薬品についてです。

今まで当院で使用した事が無い医薬品を使用したい時に、医師が薬事委員会に申請します。薬剤部は、この申請された医薬品が当院で適正に使用可能か、審議に必要な資料を準備しています。

申請された医薬品は、職員または患者自身が使用しやすいか、内服薬であれば飲み込みやすいか（苦かったり、大きすぎたりしないか）、外用薬であれば使い方が難しくないか等々、審議中に生まれる疑問を解消するための資料を準備します。また当院採用中の医薬品で同じ薬効のものがあれば、その違いが分かる資料も作っています。

最近は様々な影響を受け、医薬品の供給が滞ることも多く、潤沢に流通しているメーカー選びも審議内容の一つとなっております。

当委員会は、医薬品の副作用についても報告する場となっています。その副作用が、厚労省に報告すべき重大な副作用である場合は、報告のお手伝いをします。これは、副作用による患者への不利益を最小限にするための方法でもあります。

主な役割を紹介させていただきましたが、その目的は、治療にあたる医師がより良い治療薬を安全に使用出来る様に、またその医薬品を扱う職員が安全に使用出来る様に、そして何よりも患者がより良い治療を安心して受ける事が出来る様にすることです。



出典：独立行政法人医薬品医療機器総合機構「医薬品副作用被害救済制度」、「PMDA医療安全情報No.65」、小野薬品工業株式会社「安全性速報 21-01号」より引用

## 【富山ろうさい病院 市民公開講座・生活習慣病教室】のお知らせ

場所：富山ろうさい病院 2階採血室待合フロア

### 《院内公開講座》

**日 時** 令和5年11月29日（水）  
14時00分～14時45分  
**テーマ** 「誤嚥性肺炎予防！！  
お口の中のセルフケア（仮）」  
**講 師** 摂食・嚥下障害認定看護師  
楠 さやか

### 《生活習慣病教室》

※2階外来受付にお声掛けください。

**日 時** 令和5年12月27日（水）  
14時00分～15時00分  
**テーマ** 「糖尿病基本編（神経障害・フットケア）について」  
**講 師** 糖尿病・内分泌内科部長 村上 史峰他  
当院看護師、臨床検査技師

## ポリファーマシー対策チーム

薬剤部

能澤 真希子

令和4年度、厚労省の高齢者医薬品適正使用推進事業のモデル市として魚津市が選ばれ、魚津市医師会、魚津市薬剤師会、魚津市と共に協議会を設置し、地域連携で行うポリファーマシー対策に取り組んできました。この時に院内で構築されたポリファーマシー対策チームが、現在も活動しています。

医師・薬剤師・医療安全管理者・看護師・管理栄養士から成るこのチームで、月に1度症例検討会を行い、各職種の意見を出し合う場となっています。

当院にはチーム医療の取組みとして緩和ケア、栄養管理、排尿ケアなど専門的な面から意見を出し合う検討会もありますが、当チームも同様に多職種が集まり症例の検討をしています。看護師による生活面のケア、管理栄養士による食事や栄養剤での調整等による減薬の可能性を聞く事ができ、ポリファーマシー対策の一助となっています。

さて、ポリファーマシーとは、「複数」を意味する「poly」と「薬」を意味する「pharmacy」からなる、「多剤服用」を意味する言葉です。ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いことだけではなく、それに関連した薬物有害事象のリスク増加、薬の飲み間違いや飲み忘れ等の問題につながる状態をいいます。

入院した主病名に関連した薬剤はもちろんですが、それ以外の薬剤についても生活環境や病態の変化に応じた変更・削除について検討します。時には追加する薬剤の必要性についても検討しています。入院時だけでなく、退院してから安全な薬物療法が継続出来る様に、病診連携・薬薬連携を通して働きかけております。

ポリファーマシー対策を通じて、地域の皆様へより良い医療を提供していきたいです。



### 面会制限の緩和について

新型コロナウイルス感染症対策として面会を禁止しておりましたが、段階的面会を再開しております。詳細につきましては、院内掲示または当院HPをご参照ください。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院総合サポートセンター（6月1日より名称が変更となりました。）

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ（URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>）

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280（病院代表）



富山ろうさい病院だよりのバックナンバーはこちらのQRコードからも確認できます。

